

半導体関連企業の集積に伴う環境モニタリングの実施について

- 県内で半導体関連企業の集積が進む中で、規制外の金属類や有機フッ素化合物等の工場からの排出を懸念する意見も寄せられている。
- 県では、こうした意見に応え県民の不安解消を図るため、新たな半導体工場稼働前の現時点から、規制物質に加え、新たに規制外物質のモニタリングを行い、稼働後の環境の変化を客観的かつ科学的に把握する。

<環境モニタリングの概要>

- **調査時期**：現況調査として、本年夏頃から来年の11月までにかけて実施。その後、新たな半導体工場の稼働に応じて随時実施。
- **調査地点**：水質 10カ所程度 坪井川、有明海、セミコン周辺地下水、熊本北部浄化センター排水 等
大気 1カ所 セミコン周辺（菊陽北小学校）
- **調査内容**：国が規制する物質について、県では、法令等に基づき、常時、水質・大気の監視を行っている※。
これに加え、新たに規制外の金属類や化学物質について、一斉分析・解析を行い、稼働前後での変化を確認する。

区分	内容
水質	・ 金属類：ガリウム等の金属18項目 ・ 化学物質：有機フッ素化合物250項目、その他の化学物質10,000項目（スクリーニング調査）
大気	・ 金属類：ガリウム等の金属18項目

- **調査結果**：専門家で構成する委員会を設置し、結果を共有・検証する。

※ 大気については、調査地点をセミコン周辺に新たに追加し、国が規制する環境基準物質（PM2.5等5項目）、有害大気汚染物質（アルデヒド類等21項目）、揮発性有機化合物を調査する。